

Cisco IOS XEソフトウェアのUnified Threat Defenseにおけるコマンドインジェクションの脆弱性



アドバイザリーID : cisco-sa-iosxe-utd-cmd-[CVE-2024-](#)

JbL8KvHT

[20306](#)

初公開日 : 2024-03-27 16:00

最終更新日 : 2024-04-02 20:11

バージョン 1.1 : Final

CVSSスコア : [6.0](#)

回避策 : No workarounds available

Cisco バグ ID : [CSCwh05263](#)

日本語による情報は、英語による原文の非公式な翻訳であり、英語原文との間で内容の齟齬がある場合には、英語原文が優先します。

概要

Cisco IOS XEソフトウェアのUnified Threat Defense(UTD)設定CLIにおける脆弱性により、認証されたローカルの攻撃者が、基盤となるホストオペレーティングシステムでrootとして任意のコマンドを実行する可能性があります。この脆弱性を不正利用するには、攻撃者は該当デバイスに対してレベル15の権限を持っている必要があります。

この脆弱性は、不十分な入力検証に起因します。攻撃者は、巧妙に細工されたCLIコマンドを該当デバイスに送信することにより、この脆弱性を不正利用する可能性があります。エクスプロイトに成功すると、攻撃者は、基盤となるオペレーティングシステム上でルートユーザーとして任意のコマンドを実行できるようになります。

シスコはこの脆弱性に対処するソフトウェアアップデートをリリースしています。この脆弱性に対処する回避策はありません。

このアドバイザリーは、次のリンクより確認できます。

<https://sec.cloudapps.cisco.com/security/center/content/CiscoSecurityAdvisory/cisco-sa-iosxe-utd-cmd-JbL8KvHT>

このアドバイザリーは、Cisco IOSソフトウェアおよびIOS XEソフトウェアのセキュリティアドバイザリーバンドル公開の2024年3月リリースの一部です。アドバイザリーとリンクの一覧については、『[Cisco Event Response: March 2024 Semiannual Cisco IOS and IOS XE Software Security Advisory Bundled Publication](#)』を参照してください。

該当製品

脆弱性のある製品

公開時点では、この脆弱性は、Cisco IOS XEソフトウェアの脆弱性が存在するリリースを実行し、`utd engine standard unified-policy`コンフィギュレーションコマンドをサポートするシスコデバイスに影響を与えていました。

注：utd engine standard unified-policyコンフィギュレーションコマンドをサポートしていない場合、またはコンフィギュレーションコマンドでエラーが返された場合、デバイスは脆弱性の影響を受けないと見なされません。

公開時点で脆弱性が確認されている Cisco ソフトウェアのリリースについては、このアドバイザリの「修正済みソフトウェア」セクションを参照してください。

脆弱性を含んでいないことが確認された製品

このアドバイザリの脆弱性のある製品セクションに記載されている製品のみが、この脆弱性の影響を受けることが分かっています。

シスコは、この脆弱性が以下のシスコ製品には影響を与えないことを確認しました。

- IOS ソフトウェア
- IOS XR ソフトウェア
- Meraki 製品
- NX-OS ソフトウェア

回避策

この脆弱性に対処する回避策はありません。

修正済みソフトウェア

[ソフトウェアのアップグレード](#)を検討する際には、シスコ セキュリティ アドバイザリ ページで入手できるシスコ製品のアドバイザリを定期的に参照して、侵害を受ける可能性とアップグレードソリューション一式を確認してください。

いずれの場合も、アップグレードするデバイスに十分なメモリがあること、および現在のハードウェアとソフトウェアの構成が新規リリースで引き続き正しくサポートされていることを十分に確認してください。不明な点については、Cisco Technical Assistance Center (TAC) もしくは契約しているメンテナンスプロバイダーにお問い合わせください。

Cisco IOS および IOS XE ソフトウェア

お客様が Cisco IOS ソフトウェアおよび IOS XE ソフトウェアの脆弱性による侵害の可能性を判

断できるように、シスコは Cisco Software Checker を提供しています。このツールを使うことで、特定のソフトウェアリリースに関連するすべてのシスコ セキュリティ アドバイザリを検索でき、それぞれのアドバイザリで言及された脆弱性を修正した最初のリリース（「First Fixed」）を特定できます。また、該当する場合には、Software Checker により判別されたすべてのアドバイザリに記載のすべての脆弱性が修正された最初のリリース（「Combined First Fixed」）を特定できます。

このツールを使用するには、「[Cisco Software Checker](#)」ページの手順に従います。あるいは、次のフォームを使用して、シスコ セキュリティ アドバイザリに該当するリリースであるかどうかを確認します。このフォームを使用するには、次の手順に従います。

1. ツールで検索するアドバイザリを選択します。このアドバイザリのみ、[セキュリティ影響評価 \(SIR\)](#) が「重大」または「高」のアドバイザリのみ、すべてのアドバイザリのいずれかです。
2. リリース番号（15.9(3)M2、17.3.3 など）を入力します。
3. [チェック (Check)] をクリックします。

2		Critical,High,Medium
このアドバイザのみ		
Enter release number	オン	

不正利用事例と公式発表

Cisco Product Security Incident Response Team (PSIRT) は、本アドバイザリに記載されている脆弱性の不正利用事例やその公表を確認していません。

出典

この脆弱性は、Cisco Advanced Security Initiatives Group (ASIG) の X.B. による内部セキュリティテストで発見されました。

URL

<https://sec.cloudapps.cisco.com/security/center/content/CiscoSecurityAdvisory/cisco-sa-iosxe-utd-cmd-JbL8KvHT>

改訂履歴

バージョン	説明	セクション	ステータス	日付
1.1	アドバイザリリンクを更新。	要約	Final	2024年4月2日
1.0	初回公開リリース	—	Final	2024年3月27日

利用規約

本アドバイザーは無保証のものとしてご提供しており、いかなる種類の保証も示唆するものではありません。本アドバイザーの情報およびリンクの使用に関する責任の一切はそれらの使用者にあるものとします。また、シスコは本ドキュメントの内容を予告なしに変更したり、更新したりする権利を有します。

本アドバイザーの記述内容に関して情報配信の URL を省略し、単独の転載や意識を施した場合、当社が管理した情報とは見なされません。そうした情報は、事実誤認を引き起こしたり、重要な情報が欠落していたりする可能性があります。このドキュメントの情報は、シスコ製品のエンドユーザを対象としています。

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。